

第12回

空知の

なだらかな丘に広がる ぶどう畑を巡る

「やっと春だ！」。4月になるとようやくそんな気持ちになる。ぽかぽかの日差しがうれしくて、どこかに行きたくなるのもこの頃。4月下旬からお花見シーズンが始まり、桜や野草の花を見に行ったり、庭仕事も始まり、外にいるのが楽しい季節だ。なによりも真っ白だった風景が、柔らかな新緑の色に変わっていき、小さな木の芽に覆われる山や作物の芽を出す畑など、どの風景も柔らかで清々しい。

空知は田んぼのイメージだけけれど、ぶどう畑も似合うなぁとこのごろ思う。そして、春はぶどう畑もどんどん忙しくなるシーズン。雪のふとんに守られて、冬眠していたぶどうの枝を、^{せんてい}剪定しながら起こしていくのだ。目覚めたぶどうの木から新しい葉が芽吹き、つるが伸び、小さな葉も次第に大きくなって6月には小さな花をつける。この時期に雨が降ると大変なのだそう。小さなぶどうの花には花びらがなく、雨で花粉が落ちてしまうと実がならない。実が少ないと、それを使って造るワインの本数も当然少なくなる。

このような話を約12年前、空知のヴィンヤードを取材させてもらったときに聞いた。以来、春先の気温や雨がとても気になってしまう。気候変動の激しい昨年、ぶどうをはじめ農家の方々の苦労がしのばれる。

ところで、空知がこんなにぶどう畑が広がり、ワイナリーが点在している場所になるだなんて、ワイン好きとしてはとてもうれしい。春になると、昨年仕込んだワインがどんどんリリースされ、それぞれのワイナリーの直売所などで販売が始まる。昨年の気候で育まれたワインはどんな味になったのかなぁと、とてもワクワクする。それをお目当てに出かける空知のワイナリー巡り=風景めぐりはとても楽しい。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。また、新作絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」(アリス館)が4月下旬に出版予定。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



IOR
(岩見沢)



鷺沼
ワイナリー
(浦臼)



「KONDO
ヴィンヤード」
(岩見沢・三笠)



マイ
ワイナリー
(長沼)



宝水
ワイナリー
(岩見沢)



中澤
ヴィンヤード
(岩見沢)



TAKIZAWA
ワイナリー
(三笠)



山崎
ワイナリー
(三笠)

